



き 全 日 本
ゃ 国 能
ら ば 楽
ん



in 松山
喜多流公演

鎌倉殿栄光の影で生きた
兄弟の絆
— 曾我物二題



小袖曾我
夜討曾我

内田成信
金子敬一郎

日本全国 能楽キャラバン! in 松山 喜多流公演

令和5年 1月15日(日)

松山市民会館 小ホール能舞台

- 第1部 13:00~14:30 (12:00開場)
- 第2部 15:30~17:00 (15:00開場)

■ 料金 全席自由(全200席・税込)

第1部 4,500円 / 第2部 4,500円
第1部~第2部通し券 8,000円

■ 前売開始 令和4年10月7日(金) 午前10時~

■ お申し込み・お問合せ

十四世喜多六平太記念能楽堂 03-3491-8813

喜多能楽堂オンラインチケット予約

<http://kita-noh.com/ticket/> (web予約後セブンイレブンで発券)

主催：公益社団法人能楽協会、公益財団法人十四世六平太記念財団



文化庁 統括団体によるアートキャラバン事業
(コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業)



チケット予約購入のご案内

インターネット

- 喜多能楽堂ホームページ <http://kita-noh.com/>
(24時間対応、要登録・無料)

【お受取り・お支払い】

- セブンイレブン

ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。ご予約の際クレジットカードで先にお支払いを済ませていただくことも可能です。

電話予約

- 喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
(午前10:00~午後6:00 休館日あり)

【お受取り・お支払い】

- ① セブンイレブン

ご予約の際お伝えする番号をレジにご提示の上、チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。

- ② 郵送

チケット代金と手数料を指定の銀行口座にお振込みください。入金確認後、簡易書留にてチケットをお届けいたします。

窓口

- 喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
(午前10:00~午後6:00 休館日あり)

〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9

【お受取り・お支払い】

お支払いは現金のみとなります。

- ※ お受取り・お支払い方法によって別途手数料がかかります。ご予約の際ご案内いたします。
- ※ ご予約いただいたチケットのキャンセル、変更はできません。

新型コロナウイルス等感染症予防および
拡散防止対策について

- ご来場時、マスクのご着用をお願い致します。
- 発熱、咳、くしゃみ、全身痛、下痢などの症状がある場合は、必ずご来場の前に医療機関にご相談いただき、指示に従って指定の医療機関にて受診してください。
- 入場口に消毒用アルコールの設置を致します。十分な感染対策にご協力ください。

ご入場について

第1部

午前11時30分より整理券をお配りします。
12時より番号順に入場していただけます。

第2部

午後2時30分より整理券をお配りします。
3時より番号順に入場していただけます。

第1部~2部 通し券をご購入の方

第1部でお座りになった席にそのままお座りいただけます。

第1部と第2部の間で退場する必要はございません。

会場案内図

松山市民会館 小ホール能舞台

〒790-0007 愛媛県松山市堀之内

TEL 089-931-8181

<http://www.cul-spo.or.jp/mcph/>



ご注意

- ・開演中の途中入場はお断りいたします。
- ・未就学児童のご入場はご遠慮ください。
- ・やむを得ない事情により出演者に変更になる場合がございます。
- ・許可なき写真・ビデオ撮影、及び録音はお断りいたします。
- ・客席での携帯電話やスマートフォンなど音や光の出る電子機器のご利用はお断りいたします。
- ・当面のあいだ水分補給を除き、飲食はご遠慮くださいますようお願いいたします。
- ・お席を離れる場合は貴重品、お手回り品にご注意ください。盗難・紛失についての責任は負いかねます。
- ・係員の指示に従っていただけない際には退場していただく場合がございます。

狂言 酔 薑

第一部

午後二時開演

シテ・酢売 茂山忠三郎

アド・酢売 古川喜朗

ツレ・鬼王 佐藤 陽

ツレ・団三郎 大島輝久

ツレ・曾我兄弟の母 友枝雄人

ツレ・曾我時致 金子敬一郎

シテ・曾我祐成 内田成信

能 小袖曾我

アイ・侍女 古川道郎

後見 中村邦生
高林伸二

大鼓 大倉慶乃助
小鼓 曾和伊喜夫

笛 槻宅 聡

地謡 佐藤寛泰 栗谷充雄
友枝真也 長島 茂
栗谷浩之 大村 定
塩津圭介 狩野了一

終了予定時刻 午後二時半頃

第一部

午後三時半開演

一調 船弁慶

大日方寛

小寺真佐人

ツレ・繩 金子龍晟
ツレ・繩 高林昌司
ツレ・御所五郎丸 狩野祐一
ツレ・古谷五郎 谷友矩
ツレ・鬼王 佐藤 陽
ツレ・団三郎 大島輝久
ツレ・曾我祐成 内田成信
シテ・曾我時致 金子敬一郎

能 夜討曾我

アイ・大藤内 古川喜郎
アイ・狩場男 山本善之

後見 塩津哲生
佐々木多門

大鼓 大倉慶乃助
小鼓 曾和伊喜夫

笛 槻宅 聡

地謡 佐藤寛泰 栗谷充雄
友枝真也 長島 茂
栗谷浩之 出雲康雅
塩津圭介 狩野了一

附祝言

終了予定時刻 午後五時頃

■ 能楽における曾我物

能楽には曾我物と言われる曾我物語を題材にした曲があり「小袖曾我」「夜討曾我」「調伏曾我」「禪師曾我」などが現行曲として伝わるほか、現在は廃曲になっているが多くの曾我物が作られました。今回は曾我物の二大人気曲、仇討ちに向かう前の母との別離を描いた「小袖曾我」仇討ち当日のドラマチックな場面の「夜討曾我」をご覧いただきます。

■ あらすじ

狂言「酔薑」（すはじかみ）

都へ商売に行く途中、薑売りと酢売りが出会う。薑売りは自分に札を尽くさなければ商売させないといい、薑の由緒正しさを語る。酢売りも負けじと由緒を語るので決着がつかない。そこまでの道中、秀句（洒落）を言い合って勝負をつけることにするが、なかなか勝負がつかず、ついには……

中世の行商人を主人公にした作品。お互いの秀句を楽しむ雰囲気とテンポのよいかけあいは、見どころ、聞きどころです。薑とは生姜のことだが昔は山椒のことを指しました。（約二十分）

能「小袖曾我」（こそでそが）

源頼朝公が建久四年に富士の巻狩（大勢で追い詰めた獲物を、武士が射る狩のこと）を催します。参加することになった曾我十郎祐成、五郎時致の兄弟は、その場に実父・河津三郎の仇の工藤祐経も来ることを知り、仇討ちを決意します。

兄弟は仇討ちに出る前に母に別れを告げるため曾我の里を訪れます。この時、時致は出家せよとの母の言いつけを破り勘当されていました。祐成は歓待されますが、時致は重ねて勘当だと言ひ渡されます。祐成がとりなそうとするならば、母は兄弟ともに勘当すると告げます。

祐成は時致を伴って母の前に出て、仇討ちのことを説明し、時致の勘当を解くよう訴えますが、母は頑なに許しません。兄弟は説得を諦め、泣く泣くその場を立ち去ろうとします。母はたまらずふたりを留めて許し、三人は和解の嬉し涙を流します。感極まった祐成を中心に、門出の盃を交わした後、兄弟は共に名残の舞を舞います。そして涙ながらに母に別れを告げ、見事に仇討ちを遂げようと勇んで藤野裾野へと出立するのでした。（約六十五分）

一調「船弁慶」（ふなべんけい）

一調とは能の打楽器一人と、謡一人で勤める囃子と謡の魅力を十分に楽しむことができる上演形式です。囃子は常とは変わって一段と技巧を凝らしたものとなり、謡も囃子の演奏を生かすように謡います。古来松山藩ではワキ方である下掛宝生流の謡を好み能の地謡方も勤めていました。本日はその下掛宝生流の謡、観世流の太鼓にて「船弁慶」の一調をお届けいたします。観世流太鼓において船弁慶の一調は重い扱いとなります。（約十分）

能「夜討曾我」（ようちそが）

曾我兄弟は、従者の団三郎、鬼王とともに富士裾野に到着します。祐成は弟の時致と相談して、今夜、祐経を夜討ちにかげようと決めました。死を覚悟した二人の心残り、曾我の里に残してきた母のことでした。自分たちの死後の母の嘆きを思つて、兄弟は話し合い、従者一人に形見の品を持たせて、曾我の里に帰そうとします。曾我兄弟は、従者二人を呼び、帰るように告げるのですが、従者二人は、仇討ちを助け、真つ先に死ぬ覚悟であることを示します。しかし曾我兄弟が帰郷を厳しく命じたため、進退きわまつた従者は、互いに刺し違えて死のうとします。驚いた曾我兄弟は二人を止め、改めて曾我の里の母に形見を届けることの大切さと君臣の道を説き、言うことを聞かなければ、後の世まで勘当すると告げました。そこで言われると、従者二人も従わざるを得ません。祐成から手紙を、時致から形見守りを託された団三郎、鬼王は泣く泣く曾我の里へ帰ってゆきます。

曾我兄弟はその夜、工藤祐経を襲い、仇討ちの本懐を遂げました。その後、二人は頼朝の家来と戦い、祐成は討ち死にしています。残された時致はなおも奮戦し、古屋五郎を倒しますが、女装した御所五郎丸に組み敷かれ、捕縛されます。（約七十分）